愛知県代協が第18回通常総会を開催

「つながる絆」みんなで誇れる代協を築く

愛知県代協(橋恭浩会長)は5月29日、名古屋市中村区のウインクあいちで、第18回通常総会を開催した。会場出席者は会員57名、委任状(294名)を含め正会員数2分の1以上(計351名)の出席により成立が宣言された。2025年度事業報告や2026年度事業計画など6議案が審議され全て承認された。

開催に先立ち、あいさつに立った橋会長は「私が会長に就任してからの4年間、皆様とともに様々な活動に取り組み、素晴らしい成果を上げることができたと自負している。会長に就任した翌年には大きな不祥事が発生し、その後も、保険会社や保険会社社員による募集に関する不祥事が毎年のように、あるいは忘れた頃に再び起こるという状況が続いている。

我々の業界に対する信頼や信用は大きく低下しており、これは、何かがおかしい、何かを変えなければならないということの表れであり、行政による法改正や、保険会社の評価基準の見直しが進められている。2026年はひとつの方向性が示される。募集のあり方、そして我々代理店の評価、さらにはどのような代理店経営を行うことが評価されるのか、お客様本位の業務運営とは本来どうあるべきなのかが問われる時代になる。我々自身が考え、ルールや規程、マニュアルを整備し、検証と改善を繰り返しながらPDCAを回せる組織体制を構築していくことが当たり前の時代に入ってくる。

これからは、正しい代理店のあり方が正しく評価され、それに見合った報酬を受け取る時代になる。我々は何を目指すのか、どのような代理店を目指すのか、どのような品質を提供していくのかが非常に重要になってくる。保険会社の言うとおりに保険を販売するだけの時代ではなく、代理店独自の強みや地域性を活かし、自らの得意分野や得意な手法でお客様の信頼を獲得していくことが求められる。

今回、さまざまな出来事を経て法律が変わり、評価制度も変わろうとしている。どのような系列であろうと、どれだけ大きな規模を持っていようと、同じ物差しで評価される時代である。この変化をチャンスと捉え、ぜひ挑戦していきたい」と述べた。

そのあと、来賓の損保協会中部支部委員長の渡辺一奈氏、財務省東海財務局理財部金融監督第四課課長の水谷有里氏、日本代協副会長の山中尚氏がそれぞれ挨拶した。

橋会長

市川新会長

続いて祝電披露のあと、議事進行に入り、第1号議案(2025年度事業報告案承認の件)、第2号議案(2025年度決算報告案承認並びに監査報告)、第3号議案(2026年度事業計画案承認の件)、第4号議案(2026年度予算案承認の件)、第5号議案全役員任期満了に伴う改選の件、第6号議案(本会の決議の趣旨に反しない限りその修正を会長に一任する件)、第7号議案(その他)がそれぞれ可決承認された。

第5号議案の役員改選では、新たに理事候補が選出され、議案審議後の理事会で市川みさを氏の会長就任が決まった。

市川新会長は「現在、私たち保険業界を取り巻く環境は大きく変化している。コンプライアンスの強化、デジタル化への対応、お客様ニーズの多様化、さらに自然災害やサイバーリスクへの備えなど、代理店に求められる役割と責任は、これまで以上に大きなものとなっている。そのような時代だからこそ、私たち代理店が単独で悩み、競い合うだけではなく、互いに学び合い、支え合い、高め合う存在であることが大切だと感じている。

本年度のスローガンは〝つながる絆〟である。会員同士の絆、支部を超えた絆、そして保険会社、関係団体をはじめとする関係各社の皆様との絆、そうしたつながりこそが、これからの代協活動の大きな力になると信じている。愛知県代協は、多くの皆様のお力によって成り立っており、各支部活動や各委員会活動を通じて、皆様が代協活動を力強く前へ進めてくださっていることを、大変心強く感じている。会員の皆様と共に、知恵を出し合い、汗をかきながら、みんなで盛り上げ、みんなで誇れる代協を築いていきたい」と述べた。

総会のもよう